

平成15年度 森林環境教育全国シンポジウム

ふりかえり、まなび、つくる。里山の暮らしと私たちの未来
- 地域活動をつなぐ森林環境教育フォーラムの設立に向けて -

【開催趣旨】

近年、地球温暖化防止や生物多様性の保全など地球規模での環境問題の解決が求められる中で、森林の有する多面的な機能の重要性に対する認識が高まっています。特に熱帯林を中心とした森林資源の減少・劣化を食い止めるためには、持続可能な森林経営の推進や「資源循環型社会」の構築が必要と考えられており、我が国においても森林を適切に整備・保全し有効に活用することが求められています。

また、我が国では、かつて森林と人々の暮らしが密接な関係を保ち、農山村の人々は生活の中で薪炭材や落葉堆肥などの森林資源を利用し、文化ともいえる森林の整備や利用に関わる技術や知識を育んできました。しかしながら、昭和30年代のエネルギー革命に象徴されるように、戦後、人々の生活様式は急激に変容を遂げ、森林と人との関係が希薄化し、従来人々の手によって維持・管理されてきた森林が放置されるとともに、これまで受け継がれてきた「森林と木の文化」の継承が危ぶまれる状況に至っています。

このような中で、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深める「森林環境教育」の実践を通じて、幅広い人々が環境との調和や資源の循環利用について学び、「森林と人とが共生する社会」の実現を目指していくことが求められています。特に里山は、森林と共存してきたかつての人々の暮らしの中で培われてきた森林の整備や利用に関わる技術や知識を再発見する身近なフィールドとして注目されています。

また、こうした活動が広がり定着していくためには、実践者による交流の輪をつくり、恒常的な情報発信と交流を進めることによって、様々な地域で活動を創出・活発化する必要があります。

本シンポジウムは、「森林環境教育」を实践する各方面の関係者が集い、その成果と今後の課題について里山をキーワードとした討議と情報交流を行うことを目的に開催します。さらに、地域に根ざした活動が協働により組織化し定着していくためのネットワーク「森林環境教育フォーラム」の設立に向けた検討を行います。

【開催日時】平成15年9月27日(土)10:00～17:00
28日(日)9:00～15:00

【開催場所】山口県セミナーパーク
〔住所〕〒754-0893 山口市大字秋穂二島1062 〔電話〕083-987-1410

【参加者数】150名（行政機関、森林組合、森林環境教育の実践者・賛同者等）

【主催】全国森林組合連合会

【後援】林野庁、文部科学省、環境省、総務省、山口県、山口市、山口県教育委員会、
（予定）山口市教育委員会、山口県森林組合連合会

【事務局問合先】全国森林組合連合会 組織部 組織グループ
〔住所〕〒101-0047 東京都千代田区内神田1-1-12
〔電話〕03-3294-9717 〔FAX〕03-3293-4726
〔http〕www.zenmori.org/hureai/index.html

【開催日程】

9月27日(土) (第1日目)

10:00～10:20 開 会 < 講堂 / 定員 150 名 >

「主催者あいさつ」全国森林組合連合会
「来賓あいさつ」 林野庁
「来賓あいさつ」 山口県

10:20～12:00 全体会『里山から森林環境教育を考える』 < 講堂 / 定員 150 名 >

「里山風景～スライドショー」
里山の風景には私たち日本人のふるさどがあります。そこには自然と上手く付き合ってきたかつての暮らしがあり、技や生業（なりわい）があります。私たちが目指す森林環境教育のところが見取れます

水野一男（木文化研究所 代表取締役）
西 直人（ワークショップ・ミュー）

「森林環境教育とは」

「森林環境教育」という言葉は、いつどのような経緯で使われるようになったのでしょうか？次第に多くの場面で使われるようになったこの言葉の生まれた背景とその意味やねらいについて、整理してみたいと思います。

川嶋 直（財団法人キープ協会 常務理事・環境教育事業部長）
佐藤敬一（東京農工大学 農学部 助教授）

「旗揚げ世論調査」

今回このシンポジウムに集まった方々に、「森林環境教育」についての可能性や課題などについて、いくつかの質問をさせていただきます。

川嶋 直（財団法人キープ協会 常務理事・環境教育事業部長）

12:00～13:20 昼 食 < 管理棟2階食堂 / 各自 >

13:30～17:00 分科会

分科会1「山里の暮らしにある木の文化を見直す」 < 一般研修棟2階 201 / 定員 20 名 >

山里に残る木工製品や木の使い方などから先人の知恵をくみ取り、その知恵をプログラムにして今日の生活を見直す契機にする。具体的には、木の利用の機会としての木工教室を森林環境教育的に見直し、木と人の暮らし、木の文化を評価するきっかけとします。

水野一男（木文化研究所 代表取締役）

分科会2「森林環境教育としての里山プログラム」 < 一般研修棟2階 202 / 定員 40 名 >

里山は森林環境教育のサテライトとして重要ですが、荒廃が進んでいるため、手入れが早急に必要などの問題もあります。身近な里山の問題点や私たちの思いを里山プログラムの中で整理し、森林環境教育としての里山プログラムの方向性をワークショップ形式で検討します。

佐藤敬一（東京農工大学 農学部 助教授）
西 直人（ワークショップ・ミュー）

分科会3「地域に学ぶ、森林の育成と利用」 < 一般研修棟2階 203 / 定員 20 名 >

初日は、地域がはぐくんできた森林利用文化や、森林の現状、将来展望等の視点から、「地域における新時代の林業の姿」を描いてゆきます。翌日は、地域の活動事例を通して、森林環境教育の理解・活用が、林業経営や地域の活性化に有効であることを認識していただきます。

原島幹典（林業経営・森林インストラクター）

分科会4「まちとむらを結ぶ森林環境教育～下流域住民と森林・里山を結ぶ～」 < 一般研修棟2階 204 / 定員 20 名 >

現在荒廃している森林・里山を守っていくためには、恩恵を受けている下流域の住民が理解を深め、守り育てる活動に参加することが重要となってきました。これらの活動を促進するためには、どのようなことが必要なのか討議します。

鹿住貴之（NPO 法人 JUON(樹恩)NETWORK 事務局長）

分科会5「森林環境教育に必要な体験学習的教育手法を学ぶ」 < 一般研修棟2階 205 / 定員 40 名 >

森林環境教育の実施において、陥りがちな「体験至上主義」（体験だけ行うもの）ではない教育手法としての体験学習法のあり方を、具体的な実習を通じて理解していただきます。

川嶋 直（財団法人キープ協会 常務理事・環境教育事業部長）
高田 研（岐阜県立森林文化アカデミー 教授）

18:00～20:00 交流会 < 管理棟2階会議室 / 定員 150 名 >

9月28日(日)〔第2日目〕

9:00~12:00 分科会

分科会1「森林環境教育・木工教室のプログラム作り」 <一般研修棟1階セミナー室2 / 定員20名>
水野一男(木文化研究所 代表取締役)

分科会2「森林環境教育としての里山プログラム」 <一般研修棟2階215・216 / 定員40名>
佐藤敬一(東京農工大学 農学部 助教授)
西 直人(ワークショップ・ミュー)

分科会3「都市交流型 環境林業について考える」 <一般研修棟2階217 / 定員20名>
原島幹典(林業経営・森林インストラクター)

分科会4「まちとむらを結ぶ森林環境教育～下流域住民と森林・里山を結ぶ～」 <一般研修棟2階218 / 定員20名>
鹿住貴之(NPO法人 JUON(樹恩)NETWORK 事務局長)

分科会5-1「学校教育部会」 <一般研修棟2階219 / 定員20名>
川嶋 直(財団法人キープ協会 常務理事・環境教育事業部長)

分科会5-2「生涯学習部会」 <一般研修棟2階220 / 定員20名>
高田 研(岐阜県立森林文化アカデミー 教授)

12:00~13:20 昼 食 <管理棟2階食堂 / 各自>

13:30~15:00 全体会「森林環境教育フォーラムの立ち上げへ向けて」 <講堂 / 定員150名>

パネルディスカッション

各分科会での討議を総括するとともに、今後の森林環境教育活動の全国的な広がりや定着に向けて、地域で多様な活動に取り組む実践者の情報交流や連携を促進するためのネットワーク組織「森林環境教育フォーラム」の創設を提言し、フォーラムに求められる具体的な役割や立上げに向けた課題等について討議します。

水野一男(木文化研究所 代表取締役)
佐藤敬一(東京農工大学 農学部 助教授)
西 直人(ワークショップ・ミュー)
原島幹典(林業経営・森林インストラクター)
鹿住貴之(NPO法人 JUON(樹恩)NETWORK 事務局長)
川嶋 直(財団法人キープ協会 常務理事・環境教育事業部長)
高田 研(岐阜県立森林文化アカデミー 教授)
赤川瑞夫(山口県林政課普及班主査・林業専門技術員)

シンポジウム協力者

木村菊人 (山口県指導林業士・林業家)
白松博之 (山口県指導林業士・林業家)
園田秀則 (NPO法人 やまぐち里山人ネットワーク理事長)
山根博明 (NPO法人 やまぐち里山人ネットワーク副理事長)
中山淑子 (NPO法人 やまぐち里山人ネットワーク事務局長)
徳永 豊 (スリーヒルズアソシエイツ代表)
大滝あや (人間科学研究所)
柳井真結子(北九州市立大学法学部行政学科学生)
関 邦春 (ジェイファンネット代表取締役・ナウシカの会理事)
稲垣恵子 (横浜市立富士見台小学校はまっ子ふれあいスクール チーフパートナー・ナウシカの会理事)